

1月7日 20時20分、毎日新聞のネット配信記事から

■■<日本株>下落率高く、世界で下から2番目 上位は新興国

世界52カ国・地域の主要株価の年間騰落率を比較した調査で、日本は昨年6.55%の下落となり、下から2番目の51位だったことが分かった。米格付け会社スタンダード・アンド・プアーズ（S&P）が調査したもので、上位は、3位のインド（78.98%上昇）、4位のブラジル（74.64%上昇）、6位の中国（66.91%上昇）など新興国が軒並み占めた。

各国市場の主要銘柄（日本は東証1部などに上場する約1700銘柄）を指数化し、年初に比べて年末の水準がどうだったかを比べた。世界平均は9.57%の上昇で、先進国全体では7.11%、新興国全体は38.76%の上昇だった。首位はナイジェリア（110.56%上昇）で、米国も43位ながら4.02%の値上がり。下落したのはわずか5カ国で、最下位（下落率が最大）はアイルランド（19.62%減）だった。

日本は過去10年間の平均でも最下位から2番目（5.15%増）と伸び悩んでおり、S&Pは「投資家の日本離れを裏付ける結果だ」と分析している。